

記事の書き方 コツ学ぶ

愛教大 教員向けにNIE講座



石岡代表の話に耳を傾ける教員たち＝刈谷市の愛知教育大で

教育現場で新聞を活用するNIEの教員向け講座が十日、刈谷市の愛知教育大であり、

県内外の教員約五十人が取材の仕方や記事の書き方などを学んだ。

学習成果をまとめる壁新聞づくりや学級通信の作成などに役立ててもらおうと、二〇〇九年から教員の免許更新講習の中でNIE講座を設け、中日新聞社が協力している。

この日は、ナチス・ドイツによるホロコースト（ユダヤ人大虐殺）を学校訪問授業で伝えているNPO法人「ホロコースト教育資料センター」（東京）の石岡史子代表（四七）を全員で取材した。

教員たちは「どうしてホロコーストを題材にしたのか」「活動で一番困難だったことは」などと質問。石岡さんは「ホロコーストは国家間の争いではなく、一つのグループを排除した行為。戦争の悲惨さだけでなく、日本にもある差別や偏見の問題として考えたかった」と語った。

取材後、教員たちは書き留めたメモを見ながら、石岡さんを紹介する六百字程度の原稿に仕上げた。

（土屋晴康）